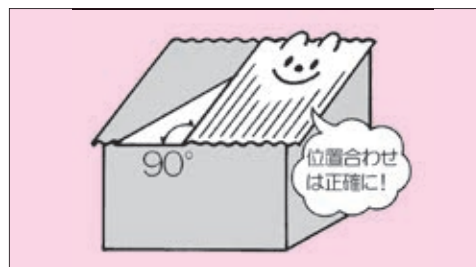


# 5. ポリカナミの施工法

## 5-1 施工上の留意事項

1. ポリカナミの片面側には、耐候性を考慮して、特殊な耐候処理を施してあります。したがって、必ず右図のように、ラベルの貼ってある面を裏側にして施工して下さい。
2. ポリカナミは、従来のPVC波板・FRP波板と同様、簡単に取付けることができます。
3. 屋外での直射日光による変形、または、他からの衝撃に対し、耐熱・耐寒・耐衝撃性がすぐれているため、施工場所を自由に選ぶことができ、安心して利用できます。
4. 風の強い日は長尺のポリカナミがあおられて作業が危険になることがあります。なるべく風のない穏やかな日を選んで施工して下さい。
5. 母屋が弱い場合、上に乗って作業すると体重で母屋がたわむ為、仕上がり時にポリカナミがゆがむことがあります。固定しようとする母屋にはあまり体重を掛けないように注意して下さい。
6. 最初のポリカナミの位置合わせは正確に行なって下さい。連結途中でポリカナミのズレを強制的に修正するとゆがみが発生し、外観上見苦しくなったり、雨漏りの原因となる場合があります。
7. ポリカナミの取り付け順序は、端部よりもう一方の端部へ順序よく施工して下さい。
8. 下地の木材にクレオソート等の木材防腐剤をご使用になりますと、クラック発生の原因となりますので使用は避けて下さい。




## 5-2 屋根勾配と標準重ね代

ポリカナミを施工する際には、重ねの部分から雨が漏れないように下表を参考に重ね代を取って下さい。

### 1. 幅方向の重ね代

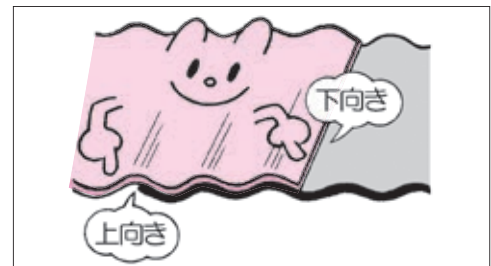
波 型	32波	63波	76波
重ね代(山数)	2.5 山以上	1.5 山以上	1.5 山以上

### 2. 流れ方向の重ね代

勾配  a/b	2.5/10	3/10	4/10	5/10
重ね代 (mm)	180以上	150以上	120以上	100以上

## 5-3 重ねかけと取付金具の位置

ポリカナミの中方向の両端は片側下がりになり片側上がりとなっていますので中方向の重ねは、右図のように必ず下がりの方を外側にして施工して下さい。又、ボルトの取付ピッチも下図を参考に行なって下さい。



### 1. 鉄板小波（32波）655mm巾の場合

部 位	重ねかけ(右葺きの場合)
中間部 (6山毎)	18山 6山 6山 下がり
端 末 部 (天窓下、軒桁、縦重ね部等) (3山毎)	18山 3山 3山 端をとめる

### 2. 鉄板小波（32波）1105mm巾の場合

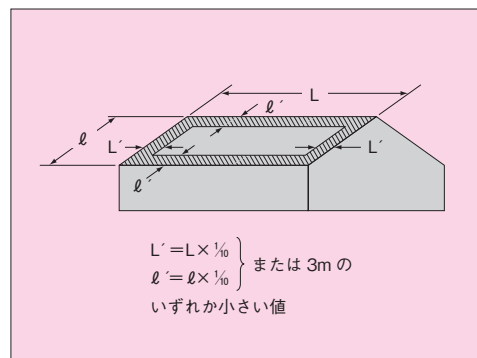
部 位	重ねかけ(右葺きの場合)
中間部 (7山毎)	32山 7山 7山 6山 6山 6山
端 末 部 (天窓下、軒桁、縦重ね部等) (4山毎)	32山 4山 4山

- スレート小波の場合は、中間部で260mm、端末部で130mmの取付ピッチにして下さい。
- 鉄板大波の場合は、中間部で4山毎、端末部で2山毎にして下さい。

### 3. 強風対策

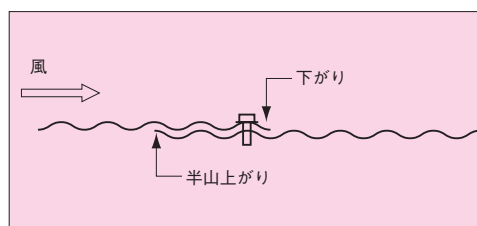
温室の屋根などでは右図のように屋根面の10%に相当する範囲（但し最大3mまで）は局部的に大きい風圧を受ける部分として園芸用施設全構造基準（（社）日本施設園芸協会）に定められておりますので、右図の斜線部は端末部と同様、こまかいピッチでポリカナミを施工して下さい。

又、台風通過地域や海岸沿いなどの強風地域では中間部に於いても、端末部と同じ取付ピッチで施工して下さい。



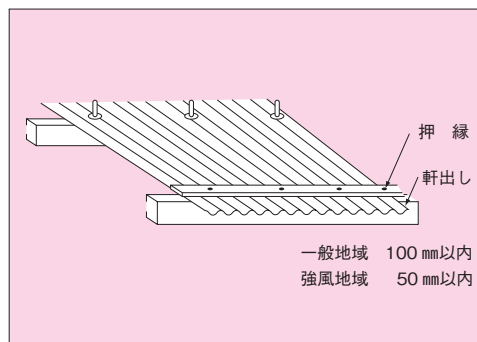
### 4. 風向と重ねかけ

現地の風向を考慮して、風下側のポリカナミが下になる様、施工して下さい。



## 5-4 軒先の出

軒先の出は、風の吹き上げや滑雪によりポリカナミが破損しないように通常は100mm以内として下さい。但し、台風通過地域や海岸沿いなどの強風地域では50mm以内とし、必要に応じ右図のように押縁を使用して下さい。



## 5-5 母屋間隔

ポリカナミを温室などに施工する際の母屋間隔は通常は600mmが標準的ですが、強風地域や積雪の多い地域又は公共及び一般住宅施設関係用途では18～19ページの耐荷重性を参考にし母屋間隔を小さくして下さい。

- 使用基準A 施設園芸関係用途
- 使用基準B 公共及び一般住宅施設関係用途

(注) プールなど公共施設で長尺のポリカナミを施工する場合は“ゆがみ”を防止する為、剛性の高いスレート小波(63波)を使用し、使用基準Bを適用して下さい。

## 5-6 安全曲率半径

ポリカナミは、すぐれた曲げ強さを持ち、柔軟性に富んでいますので、強制曲げで美しい曲面施工ができます。

安全曲率半径は下表の値以上として下さい。

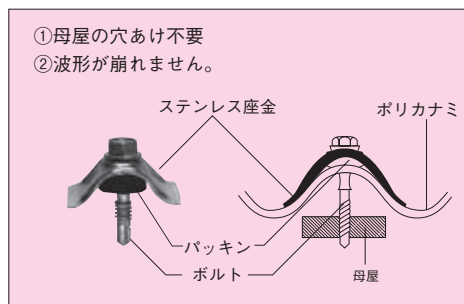
波型	板厚 (mm)		
	0.7mm	1.0mm	1.5mm
32波	750	—	—
63波	—	2000	—
76波	—	3500	—



## 5-7 取付金具

ポリカナミの一般的な取付金具としては、図6のような釘、各種フックボルトの他にテックス(ヘックス)などが使用できますが、積雪の多い地域では滑雪の障害にならないように頭の出が少ないテックス(ヘックス)一例：ナミジメーを使用して下さい。

### ポリカナミ用止め金具 ナミジメ



(注) ナミジメの長さは、下地材により各種ありますが、通常の母屋施工では、32波の場合25mm長さ、63波の場合35mm長さを使用します。尚、4枚重ねになる部分には、専用のやや長めのナミジメもあります。

<ビス締めつけ時の注意>

ビスを強く締めすぎると下図の様に变形することがありますので注意して下さい。  
 変形による歪が原因でクラックが発生する可能性があります。

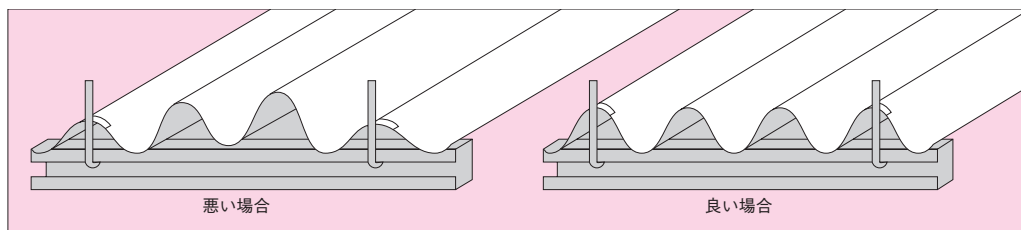
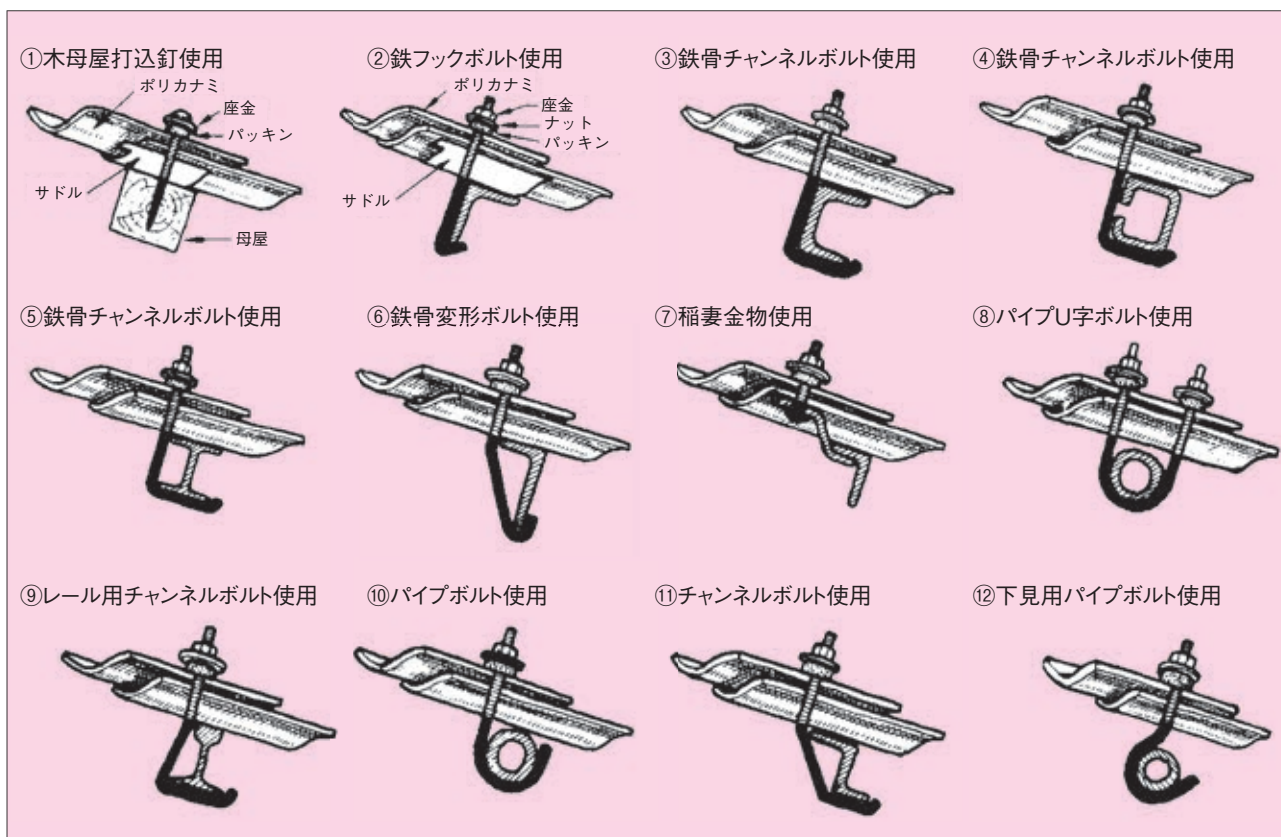


図6.一般取付図



## 5-8 気密パッキン

屋根や壁面などの隙間や棟、天窗、天窗下、軒などの納め部分にはポリカナミ用角パッキン（EPDM発泡品）やエプトシーラー等のEPDM発泡品を使用して下さい。又、シーリング材を使用する場合はシリコン系アルコールタイプを使用して下さい。

（注：プライマーは使用しなくとも良い）

例：トスシール 380……

モメンティブ・パフォーマンス・  
マテリアルズ・ジャパン合同会社

シーラント # 72…… 信越化学工業(株)

SE960 シーラント……

東レダウコーニング(株)

### ポリカナミ用角パッキン

- ①ナミ板によくなじみます。
- ②気密性にすぐれています。



## 5-9 切断及び穴あけ

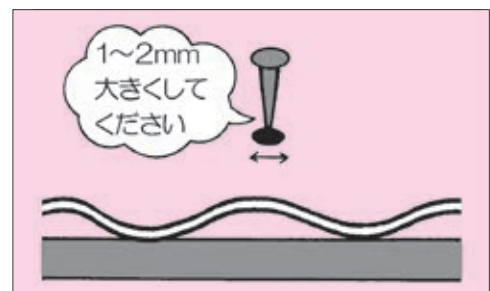
### 1. 切断

金鋸、電気丸鋸、ジグソー、鉋などで切断できますが切断片は、表裏がわからなくなるので、切断前に印を付けておく様、注意して下さい。



### 2. 穴あけ

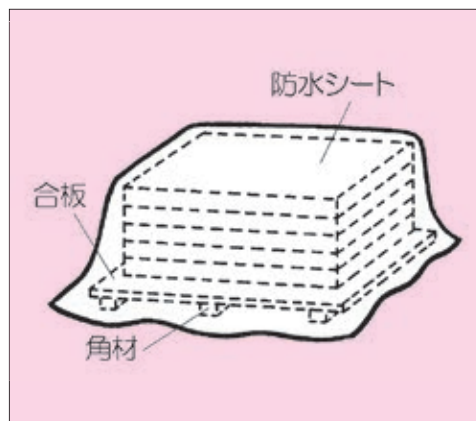
穴あけは、キリ、電動ドリルで行ない、穴の大きさは使用する釘やボルトの径より1～2mm程度大きくあけます。これは温度変化によって波板がわずかに伸び縮みするので、これに対し逃げをとるためです。この伸縮を吸収できないと梁やボルト周辺に歪が生じ、クラックの原因となります。



## 5-10 保管及び運搬

### 1. 保管

ポリカナミの保管は梱包のままとし、直接地面には置かないで角材などで浮かせた合板の上に水平に平積みして下さい。露天に積み重ねておくと地中からの湿気や雨水などの浸入により、重ね部分が濡れ、日射による昇温などでその部分が白化する事がありますので、保管は室内として下さい。但し、やむをえず屋外に保管する場合は、風通しのよい日陰の場所に置き、防水シートをかぶせ、雨水の浸入を防いで下さい。



### 2. 持ち運びについて

ポリカナミは長尺で且つ柔軟ですので、流れ方向に巻いて長さに応じ、1人～2人で運んで下さい。爪折れが防止できます。

